

娘子をとめ、佐伯宿禰赤麻呂さへきのすくねあかまろの贈る歌おくうたに報こたふる一首

四〇四番

ちはやぶる 神かみの社やしろし なかりせば 春日かすがの野の辺へ
に 栗あはま蒔まかましを

佐伯宿禰赤麻呂さへきのすくねあかまろのさらさらに贈おくる歌うた一首

四〇五番

春日かすが野のに 栗あはま蒔まけりせば 鹿ししま待まちちに 継つぎて行いか
ましを 社やしろし恨うらめし

娘子をとめのまた報こたふる歌うた一首

四〇六番

我わが祭まつる 神かみにはあらず ますらをに つきたる
神かみそ よく祭まつるべし

おほどものすくねするがまろ 大伴宿禰駿河麻呂、同じ坂上家の二嬢を娉まこ

ふ歌一首

四〇七番

春霞はるかすみ 春日かすがの里さとの 植うゑ小水葱こなぎ 苗なへなりと言うひし
柄えはさしにけむ